

各設問を下表の「評価の観点」によりA、B、Cの3段階で評価し、それらをもとに「小論文」の評価をA～Eの5段階で行った。

	出題の趣旨	設問	評価の観点
小論文1	吉田兼好『徒然草』と本居宣長『玉勝間』からの出題である。『徒然草』には現代語訳を付けることによって、古文の理解だけをみるのではなく、本居宣長がどのように兼好を批判的にとらえているのかを理解、推察し、またそれを表現する力をみる。 問一は「花」と「月」及び「ひとへに逢ひ見るをばいふ物かは。」から推察できる「男女の仲」を問う。 問二は『徒然草』の本文と現代語訳から推察しながら、『玉勝間』が現代語訳できるかを問う。 問三は「つくりみやび」と「人のまことの情」の違いを明らかにして、本居宣長の批判の核心に迫れるかどうかを問う。 問四は「桜の花の見どころ」を「満開」とするのか、そうではないのか、どのような立場であってもよいが、本文を踏まえて自分の考えを表現できるかを問う。	問一	「逢えなかった思い」「終わってしまった恋」等が述べられているか。
		問二	一語一語を大切に現代語訳しようとする姿勢がみられるか。全体の内容の流れがとらえられているか。
		問三	『玉勝間』の後半部分を理解できているか。「つくりみやび」とは何を言うのか。字数指定に合うように、まとまりのある文章で表現してあるか。
		問四	自分の考えをその理由とともにしっかり述べているか。字数指定に合うように、まとまりのある文章で表現してあるか。
小論文2	立体図を頭に描き、様々な角度から立体を見る(想像する)力をみる。 (I) 断面図をかくために底面図が必要であることに気づき、そこから必要な長さを求め、切断面の形をうまく表現できるか。また、複雑な立体の体積を求める過程で底面の分割に気づくか、もしくは工夫ができるか。計算においては、分数の計算、三平方の定理、相似の利用、三角形の面積、台形の面積、直方体や三角柱の体積などを工夫して必要な値を正しく求められるかを問う。 評価の観点に含まれない解き方であっても設問に対して正しい答えが導かれる内容であればその過程を評価の対象とする。	【問1】	(ア)簡単な立体を頭に描き凹凸に注意しながら様々な角度から見ることができるか。 (イ)断面図をかくために底面図が必要であることに気づき三平方の定理などを使って必要な長さを求めることができるか。 (ウ)高さの違う立体を組合せたものであるから分割した立体に対応して底面を分割し直方体や三角柱の体積を足し合わせることで求める立体の体積が得られるか。
			【問2】
		【問1】	すべての場合を書き出す最初の過程である。数字1, 2, 3の並びや、数字2, 2, 2の並びから構成されることに気づくか。
		【問2】	さらに様々な場合がありそれらを正しく書き出すことができるか。
		【問3】	解答の流れからリズムよく問1同様に求めることができるか。
【問4】	問1～問3の合計がすべての場合であることに気づくか。		
【問5】	『設定』を理解し解答の過程で立体の表面積を求めるといった数学的に類似な思考に慣れる力があるか。またその数字の並びから起こる表面積の違い(特徴)を捉え表面積が異なる場合がどんなときかを(直観的にでも)調べ、より多く拾い出せるか。		
小論文3	・英文全体の流れや、趣旨、要旨をを迅速かつ的確に把握し、それを日本語でまとめる力をみる。 ・英語を使い、自らの考えを表現・説明できる力をみる。	【問1】	要点となる箇所を正確に読み取り、過不足なくまとめられているか。 自分の考えを英語で的確に表現することができるか。
		【問2】	希望の内容が具体的であり、理由が述べられているか。 パラグラフの展開に無理がないかどうか。 語句・文法を正しく用いて表現できるか。